

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 733

所管部局	教育委員会	所管課	社会教育課	担当者名	井尻 智道
事業名	展示会事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	展示会事業			政策体系	252
会計	一般会計	科目	10.教育 - 5.社会 - 4.資料		

1. 事業の概要

南丹市内の歴史・芸術・民俗・産業・自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示する。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

南丹市内に残る伝統や文化を後世に残すために、市内の歴史文化にまつわるテーマを設定、展示会を開催する。展示会を観覧し、理解することによって地域の歴史を郷土への愛着を深めることができる。また、展示会を通して、地域の人々と協同して文化を育てるとともに、地域の活性化をもたらす役割を果たすことを目的とする。

②事業を実施する必要性

経済力が、文化・芸術を支える時代から、文化・芸術が経済社会のあり方を変える時代に移ろうとしている。これからの博物館は、まさにこの点にその存在意義が求められている。
博物館利用者の学習意欲をかきたてるような展示会を定期的実施し、収蔵資料についても充実させる。

3. 事業費の推移

		単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額		千円	7,210	7,443	7,307	3,719	2,994	4,331	4,331
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	350	365	365
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
一般財源		千円	7,210	7,443	7,307	3,719	2,644	3,966	3,966
職員等の従事人員		人/年	—	—	1.32	3.22			
人件費		千円	—	—	5,419	9,094			
事業費総額		千円	—	—	12,726	12,813			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

展示資料輸送等	1,410,150円	(委託料)
展示会印刷費	1,387,448円	(印刷製本費)
展示会用備品購入	163,850円	(備品購入費)

5. 事業結果の概要

文化博物館
・夏季企画展「映像文化の足跡」
・秋季企画展「源氏物語千年紀～匠の美と技～」
・工芸品展示会（南丹工芸文化祭）
日吉町郷土資料館
・秋季企画展「胡麻日吉神社の馬かけ神事」

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 展示会事業		
●文化博物館 夏季企画展『映像文化の足跡～光学玩具から映画まで～』 展示点数：約150点 関連行事：映画上映会・錦影絵ワークショップ	7月18日(土)～9月13日(日)	入館者数：669人
●文化博物館 秋季企画展『源氏物語千年紀～匠の美と技～』 南丹ものづくりの祭典関連事業	10月17日(土)～11月15日(日)	入館者数：651人
●文化博物館 工芸品展示会(南丹工芸文化祭、南丹文化ジョイントプログラム) 工芸家作品、学生作品	平成22年1月30日(土)～2月7日(日)	入館者数:2,344人主催：南丹教育局等、南丹工芸文化祭実行委員会
●日吉町郷土資料館 秋季企画展「胡麻日吉神社の馬かけ」 主な展示品：馬かけ神事に使用された神馬役の鎧他36点	9月5日(土)～10月12日(祝・月)	入館者数：414人
(2) その他		
●文化博物館・日吉町郷土資料館 展示会図録等の作成	博物館：7月、10月発刊 資料館：9月発刊	配布先：市内小中学校、府内図書館、行政機関・博物館・美術館等残部は来館者等に販売

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

来館者増だけを考えるのではなく、南丹市に関連するテーマで事業展開できるようストーリー性を持たせることが必要。
南丹市内に残る歴史と文化をテーマとして、事業を展開できるのはこの事業の特異性である。これを活かして、市民の郷土への意識を高めていくことができる。
展示会のテーマ等について市民の意見を取り入れる工夫をしたい。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
来館者増だけを考えるのではなく、南丹市に関連するテーマで事業展開できるようストーリー性を持たせた。
- ②当該事業のアピール事項
南丹市内に残る歴史と文化をテーマとして、事業を展開できるのはこの事業の特異性である。これを活かして、市民の郷土への意識を高めていくことができる。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
展示会のテーマ等について市民の意見を取り入れる工夫をしたい。